

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和3年度第1回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和3年7月26日(月) 15:00～16:30
開催場所	Web会議（来場者用：高松市役所11階113会議室）
議 題	(1) 第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける令和2年度実績について (2) 新型コロナウイルス感染症の影響と主な対応について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、真鍋副会長、出木浦委員、西成委員、木村委員、三井委員、橋本委員、原委員、植中委員、杉ノ内委員、渡邊委員
事務局	長井創造都市推進局長、石川創造都市推進局次長兼産業経済部長、次田文化・観光・スポーツ部長兼文化芸術振興課長、白井農林水産課長、吉峰観光交流課長、三宅観光交流課都市交流室長、北谷こども未来館副館長、今池産業振興課長、山下産業振興課長補佐、三浦産業振興課創造産業係長、岡本産業振興課主査
傍聴者	0人（定員3人）
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

（事務局から開会挨拶）

2 議題（1）第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける令和2年度の実績について及び議題（2）新型コロナウイルス感染症の影響と主な対応について

## 審議経過及び審議結果

### 【会長】

それでは、本日は、2つの議題について主に議論する予定である。議題（1）第2次高松市創造都市推進ビジョンにおける令和2年度実績について及び議題（2）新型コロナウイルス感染症の影響と主な対応について議論を進めていきたい。事務局から配布資料の説明をお願いしたい。

（事務局から配布資料【資料4・資料5】について説明）

### 【会長】

それでは、この2つの議題に関連して、順に皆さんから御意見をいただきたい。

### 【委員】

資料の内容から、実績値の話を受けて、何か意見があるという訳ではないが、新型コロナウイルス感染症の影響が多大であったということが、非常によく分かった。

### 【会長】

私の方から、資料4スライド番号4の「こども未来館学習体験事業」というのがあり、こども未来館での実地開催数は大幅に減少しているが、その代わりに学校に出張して開催した学校数が36校で、対象者数が3,146人であったという形で書いてあるが、実施実績の部分にその数字を加えたほうがいいのではないかと。つまり、実施実績は6校で324人という数字になっているが、出張でカバーしているわけなので、合計すれば42校の3,500人ぐらいになると思うので、これまでと比べてそんなに大幅に減少している訳ではないということが言える。このことは、創意的に事業を継続しているという、そういう評価になるのではないかと。事務局は、どのような考えか。

### 【事務局】

おっしゃるように、出張により実施した実績値も、事業としては同じものとなるので、実施実績として合計するよう、対応したい。

【会長】

やはりコロナの状況の中で、創意工夫して様々な事業をできるだけ開催するという方向で努力をしたということの評価するというのが、よろしいかと思う。

それでは、他の委員の方に意見などをお伺したい。

【委員】

全体の実績に関しては、コロナの状況の中で取り組まれたことが資料として残されているので、何年か経った後に振り返った時に、大変、貴重な資料になると思う。できるだけ詳細な記録として残せるものは残した方がいいと思う。この事態がいつか必ず風化するので、新しい形になっていったという経過が分かるよう、今、実施していることをできるだけ記録に留めていくということが必要だと思っている。

個々の事業については、それぞれの場面でよく努力されていると思う。期待した事業が実施できない代わりに、あまり期待をしない部分があるが、実はこういう状況だとうまくいったというような。つまり人と人が出会い、向かい合ってやっていかなければいけないものについて制限が多かったけれども、そうじゃなくて、距離をとってでも繋がっていくという、そういった新しい方法が少しずつ提案されていっているというのが全体の印象ではある。

貴重なものなので、ぜひ大切に積み上げていった方がいいと思う。

【会長】

私の方からも逆に質問したいのだが、大学は、コロナの中でオンライン授業を行ったと思うが、オンライン授業は学生にとって、プラスの効果やマイナスの影響はどういったものがあったのか。

【委員】

現在のところ、まだコロナ禍が続いているので、それがプラスになったかマイナスになったか、結果はまだ十分に出ていないかもしれないが、対面で行う教育が普通だと考えていた中で、対面だけじゃない教育、つまり距離がある中、情報交換によって、物を繰り返したり、資料を積み上げたりする方法は以前から行われていた。コロナのおかげというよりは、コロナのせいで、逆にそういう方法が非常に貴重なものだと

ということが体験できた。

これは大学の規模によって違うが、今まで当然だと思っていた教育のあり方みたいなのが、当然ではないということを知らされたことと、今までやってきたことが非常にプラスの部分があることが分かり、コロナ禍が1年半ぐらい過ぎて、どちらかというとはやはり教育自体は向かい合ってやるものだと確信している。

ただそれだけじゃなくて、違う方法も十分使えるということ、いざとなればそういう方法を使って、教育効果を上げられるということ、そういう壮大な実験みたいなのが今行われているというような理解はできる。

一緒にいる時、対面の時には見えなかった学生の顔が、オンラインになることで、よく分かるようになったということも確かにある。みんなが集まった時にはあまりしゃべらない学生が、オンラインになるとすごい意見をきちんと出してくるとか、そういうのは教育者の側の発見がたくさんあった。だから、そういうものを、ぜひ今後の教育に取り入れられたらと思う。

コロナそのものは悲惨なものではあると思うが、そこで学んだことはたくさんあるというふうにしていくのがとても重要だと思う。

【会長】

分かりました。では、次の方に意見などをお伺いしたい。

【委員】

街中の音楽や大道芸などのイベントがほとんど中止された中で、今後、映像などで配信するということを考えているということだが、今まで街に来られる人とか、来やすい人にだけあるサービスだったものが映像配信であれば、リアルタイムで見られなくても、いつでも見られるようになるということは良いと思うので、ぜひ実現して欲しい。

例えば、栗林公園の映像を配信して、栗林公園に行きたくなくなるようにする取組だったり、屋島の夕日を映像で配信したら、そこに全国の人が来たくなくなるような取組であったり、大道芸の人たちも、街でイベントをしている様子を配信すると、街がより魅力的に見えたりする効果があると思う。そのイベントの時だけ来るのではなく、それが仕組みになるような取組をして欲しい。

### 【会長】

パフォーマンス、特に芸能芸術は、リアルタイムで、まさに現場でできない、対面でできない場合にオンラインを活用するという取組が色々行われている。それが良い面と、やはり生じゃないと感動しないという面と、両方あると思うが、これから様々な創造都市事業について、ハイブリッドというか、両方の良さを組み合わせて、事業展開するというのをよく考えることが大切である。それから映像記録に残して、オンデマンドで、いつでも自分の都合に合わせて鑑賞することができるというような取組も考えられる。

この点に関して、御意見はどうか。

### 【委員】

意見といいますか、高松でも、高松市美術館であったり、香川県立ミュージアムであったり、そういった博物館等では開催できない、開館されていない時期に、動画が配信されるなどして、これまでそういった場所に足を向けることができなかつたり、いくらかの入場料がかかる、でも、それがかからないということで、そこにオンラインでいくことができたり、あるいは、今までは例えば子どもだけが行っていたりとかしたのが、家族みんなでグループ体験できるとか、いろいろ良い面があったのではないかと思う。

また資料4にも、友好都市セント・ピーターズバーグ市との60周年記念とあるが、この1年半ぐらいの間に、例えば学会とか、あるいは、遠くから来ていただく特別講義とかそういったものが大学で行われたりするときでも、今までなかなかお呼びすることができなかった遠方の方を、オンラインだからこそお話を伺えるチャンスがあったりっていうようなこともあったので、オンラインでの市民、あるいは向こうの市民、両市の市民の方たちが、これまで数人の方たちだけが交流で行き来していたものが、もっとたくさんの人たちでプログラムが実施されるような機会にもなると思うし、その点、やはりパンデミックの時期というのは、ICTが劇的に遅れていた日本が、一歩前に進める、こういったチャンス時期だと解釈して、様々な点において、ぜひそのサポートを少し厚くしていくということもお考えいただいてもいいと思う。

【会長】

今、話題にあがりました、高松市とセント・ピーターズバーグ市との姉妹都市60周年記念事業について、事務局の方に伺う。どんな形でやられて、市民との関わりがオンラインだとかいろんなもの活用しておられると思うが、こういった事業を予定しているか説明していただきたい。

【事務局（観光交流課都市交流室）】

セント・ピーターズバーグ市との姉妹都市提携60周年記念事業については10月に式典を予定している。ただ、オンラインで繋ぐということに関しては、時差が11時間あるので、その式典の場面をリアルタイムで繋ぐことはできないが、後日、その様子をオンデマンドで配信することになっている。そういった意味では、市民の方に見ていただける機会は広がると思っている。

【会長】

オンデマンドで広く皆さんに、知らせることができると。これは式典だけになるか、何かそれに関連する文化事業、関連事業というものもあるのか。

【事務局（観光交流課都市交流室）】

式典の他にもいくつか記念事業を予定していて、小学校同士の交流授業を予定しているが、これはできればオンラインでつないで実施しようと思っている。

【会長】

11時間の時差っていうのは結構、大変だ。私もコロンビア大使館の方とオンラインで対面したが、向こうの夜の時間に合わせて、朝早く起きて実施したので、時差があると大変だとは思う。様々な工夫をしていただいて、市民の皆さんができるだけ関心を持たれるような形にしてもらいたい。

それでは、他の委員の方はいかがか。

### 【委員】

資料4によると、私たちが実施している芸術士派遣事業は、令和2年度実績なので、実績は横ばいとなり、コロナの影響で活動報告展が中止ということで表示をされている。

この後の動きをお知らせすると、令和3年度はこれまでの派遣施設数が43園から73園に増えた。これは、予算が増額したということではなくて、予算は同じで、年間の1園当たりの派遣回数が約半分の22回ほどになり、事業開始から12年目において、仕組みが大きく変わる事となった。

派遣回数は半分になったが、これまで芸術士を派遣できなかった約30施設強に、芸術士を派遣できるという事業に変わった。1人の負担のウエイトが大きくなったが、呼んでいただける施設に関しては、これからずっと芸術士が行けるという仕組みになって、事業開始から12年目で大きく形態が変わった。

### 【会長】

この芸術士派遣事業は、全国的にもかなり関心を呼んでいて、類似の取組が進んでいるように思う。その意味では、高松市の創造都市事業がパイオニア的な役割を果たしてきたということでは、この芸術士派遣事業は非常に意味があるので、引き続き予算面でもしっかりバックアップをして欲しいということは、前回も申し上げたが、行政の方でしっかり考えていただきたい。

では、引き続き、意見を伺いたい。

### 【委員】

冒頭に会長から御指摘もあった、いわゆるこちらへ来てもらえなければ、こっちから行こうという発想で、前年と同じくらいの実績になったということは非常に評価に値すると思う。特にこういう時代なので、創造都市のデータ、目標というのは、ほとんどが来てもらうことで評価するような事業内容になっている。

ところが残念ながらこのコロナの中で、来てもらうことができないということであれば、むしろ発想を根本的に変えて、来てもらえないならこっちから行こうか、それは人であったり物であったり、あるいは情報であったり、評価の基準自体も変えてしまう。

そうすると、そこにおける情報発信の仕方の技術を高めていくとか、ソフトを高めていくとか、いろんなことをすれば、どこにも負けない情報発信力ができると思う。

それを今のうちにやっておけば、コロナが収まった時には、あそこにもう一回行ってみたいとか、そんな発想になる。そうすると、この1年間ぐらいはむしろ中途半端なことを考えないで、そういった視点にものごとを変えてしまって、思い切ってそこへいろんなものの力を投入するというようなことが大事と感じる。

#### 【会長】

インバウンドもそうだが、こちらに来てもらうというのはなかなかできないということであれば、こちらからオンラインで届ける、あるいは出張の形で届けると、いろんな創造的な取り組みがあるということで、こども未来館もまさに「出張」という形でアウトリーチをし、成果をあげてきた。

様々な事業について、これまでの当たり前としてきた方法ではなく、新しい方法を考えましょうということは大いに賛成である。

それでは、他の委員の意見をお伺いします。

#### 【委員】

ポイントを3つお伝えできたらと思う。

先ほどの資料の中で、**資料4**「伝統・芸術・デザインで新しい未来を拓く」の伝統的ものづくり親子体験教室で、事業開始以降、満足度評価が最も高くなっているということがあった。参加人数が少ないことから、講師による声掛けや指導をきめ細かに行えたり、親子で外出して楽しめる数少ない講座であることから、事業開始以降、満足度評価が最も高くなったと記載があって、このコロナ禍のいろんな制限がある中で、こういった人との触れ合いや、ものづくりを通して知識や技術を知るということで、学べたということに対する満足度が高いということが分かる。

そういったことを考えると、いろんなところで「誰一人取り残さない」というキーワードを目にすることがあるが、そういうことをスローガンに掲げた取組が増えていかなとイケないところにきていると思っていて、伝統的ものづくり親子体験教室の令和2年度における成果で、参



加者数は半減しているのに、その1人1人の満足度が高いということの方が、たくさんの人数が参加していただくことよりも大切かと思う。

これが、私はコロナで見えてきたことのひとつとっていて、例えば、大ホールでやっていたコンサートを小ホールに切り替えたり、大ホールのままだけど半分にしてやったりして、人との距離は遠くなったが、心の距離が縮まったと感じた。

2つ目だが、オンラインで様々なことをやっているが、良かった点と悪かった点、何があるか考えてみると、オンラインにして良かったことは、個人レベルで知識を得られることは満足度が高い、一方で、悪かった点として、今まで劇場に足を運んで、みんなと共有して楽しかったということに関してはオンラインでリアルタイムにしなくてもDVDを発売していただいたら全く一緒になってしまうというという部分があると思う。

知識を得ることに関しては、オンラインはとても有用に使えるとっており、現在私が勉強していることだが、外国人留学生に日本語を教えるやり方を学んでいる。今、コロナ禍で留学生の受入れがストップしている状況だと思うのだが、香川県において、ミャンマーやネパール、ベトナムなどの様々な国の方々が、特定技能で、高松市内の特別養護老人ホーム等で、各施設に1人～3人くらいは働いている。そういった人が、地元の高松市民とうまくコミュニケーションが取れなくて困っているという状況がある。

本当は、もっとコミュニケーションする時間を増やしてあげればいいが、例えば、文化についてもっと興味を持ってもらえる話も展開できるはずだが、マスクをしていてジェスチャーくらいでは届かないので、同じ高松市民として暮らしている人たちの中でも、うまくいっていないこともあると、私が接している人たちの中で感じた。

いずれ、このコロナが終息に向かって、この香川県高松市に留学生や特定技能などで働く人が増えるとなれば、もっと地域住民の人たちにも意識を持っていただいて、多文化共生ということを促進していく必要があると思う。

最後に3つ目だが、先ほどのセント・ピーターズバーグ市も姉妹都市だと思うが、台湾も友好都市だと思うので、友好都市との何周年という記念行事、おそらく次に来るとしたら10周年、まだ先だが、そうしたものに対する長期プロジェクトというのを考えていく時間になったら

いと思う。

それと、やはり今の世代の人たちがいろんな働きかけをしているが、大事なのは次の世代の人たちに繋いでいくことかなと思う。なるべく、いろんなノウハウを自分のものにせず、いろんな人にシェアしていくことの大切さというのは、おそらく今の時代が教えてくれたことだと思うので、どんどんそれを出し合っていく。

前回の会議のときに、U40の活動を聞いて、私も参加させていただいて、すごく活発だった。これから時代を作っていく、それから文化を継続させていく、古いものを温めながら新しいものをしていくっていうところで考えたときに、そういったことを、時間をかけて丁寧に一個人と接していくことが、この創造都市高松には必要なことだと強く思うようになった。

#### 【会長】

最後に出たU40の取組については後程、事務局から報告してもらおう。最初に言われたことだが、あらゆる取組について、量より質が非常に大事になってきているということ。成果報告や実績についても、主に量的なものしか上がってない。いわば文章表現で、つまり定性的に言葉で書いているものについて、定量的・定性的、量と質の両方で総合的に判断するというような形で、この辺りを、特に今の環境の下では大変大事だと思うので、引き続き、この点で総合評価に気をつけていきたいと思う。

それでは、他の委員の意見をお伺いしたい。

#### 【委員】

コロナになってから、私たちの生活が大幅に制限を受けてしまい、割と今までのことができなくなったという、もちろんマイナス面も大きいと思うが、コロナ禍でこれまでになかった新しい動きが出てきたような気がしている。

先ほど、話題にあがっていた映像配信についてだが、特に若い人たちの間で、その映像編集に関する関心が高まっているように思っていて、ユーチューブでも映像編集ソフトのチュートリアル動画がここ1年ぐらいの間で、非常に多くアップされている。

それだけ若い人が、関心を持っている証拠だと思うのだが、これから

の若い人たちに、例えば、映像編集などの技術を磨いてもらい、アートの世界で、映像ならではの世界感をどんどん発信していただいたら、高松もいろんな面で注目を浴びるのではないかというふうに考えている。

先ほど事務局から御報告いただいた、いろいろな催し物というか行事の中で、コロナになって新たな発見があったようなことが、もしあれば、教えていただきたい。

#### 【事務局】

今回の中では、こども未来館の取組を取り上げたい。先ほど、御意見をいただいたように、こちらから出向いて対応していくというところが、一番大きな発見と思っている。

#### 【会長】

いわゆる記録映画だとか、あるいは、パフォーマンスを映像配信するだとか、そういうことについて、例えば、京都市は早くから若手のそういった芸術活動について助成金を準備したりしている。

文化庁の中にも、映像配信や映像記録を作って、これまで手の届かない方々に配信するとかっていう事業を応援しようとしたが、高松市独自で映像配信やオンラインによる芸術・芸能の普及事業の経験はあるか。

#### 【事務局（文化芸術振興課）】

高松市の方でも、映像を活用した事業は、今年度から開始している。

例えば、コロナ禍で、外であったり、街中であったり、そういった場所で、今までのように事業を実施するというのは難しい状況にある。その中で、アーティストの方に映像作品を作っていただいて、それを多くの市民の方、これは若い方から年代関係なく見ていただけるようなクオリティの高い映像作品を作っていただこうと思い、現在、募集をしている。

その映像作品については、その場で見られるだけではなく、先ほど会長もおっしゃっていたように、オンデマンドで見られるように、リアルタイム＋アーカイブの仕組みを考えている。

一方、昨年度においては、市の方で文化芸術活動の補助をしているが、これまでだと、活動に対する補助は、要はいろんなイベントをやったり、発表会をやったり、そういった部分に対する補助をしていたが、

それに加えて映像作品として記録に残すようなものについても、補助をしている。

コロナ禍で文化芸術が今後どうなっていくかというのは、我々、文化芸術を担当する部署においても、常に悩んでいるところだが、ICTを活用したような仕組みを取り入れながら、多くの方に見ていただけるようにしたいと思っている。

ただ一方で、先ほどあったように、オンラインの世界というのは、知識を得るにはいいところもあるが、その場で皆さんで共有して楽しむというところがなかなか難しいところでもあろうかと思う。そういったところも今後、課題として検討して参りたい。簡単ではあるが、昨年度と年度の取り組みの一部を御紹介させていただいた。

#### 【会長】

色々な取組をしていることは分かった。それでは、ここでU40の取組について、事務局から報告をいただきたい。

### 3 議題（3）その他について

（事務局から配布資料（参考資料）について説明）

#### 【会長】

このU40の動きについて、質問や補足的に御意見のある方はお願いしたい。

#### 【委員】

私は、第5期U40の初回会議の2月22日を見学させていただいた。その時の雰囲気として、全員お若いけれども、自分がひとつの会社の経営者という方も多くいるので、高松市を盛り上げていこうとする姿勢というのは、もしかしたら私たちは負けているのではないかと、正直思った。そのくらい活気があった。

ファシリテーションのスキルがある人が多く、そういう場に慣れていた。30代の方が多かったと思うが、全員に何かさせるっていうのが上手で、すごく活発だったということが印象に残った。

委員の方のお話を聞いていくと、例えば、先ほど映像配信の話があったと思うが、ユーチューブでフォロワーが何万人もいらっしゃる方がメンバーにいたりするので、もしかしたら映像で高松市の魅力をPRしていこうっていったときには、U40メンバーの本人たちが既に知識を持っていらっしゃるなという風に思った。そういった人材が既に揃っていると思う。

あと、必要なことは、いろんな世代を繋げていくのがおそらく上手な方々だと思うが、もっと上の人たちや若い人たち、子育てしている人もいらっしゃるなので、その世代間をどうやってうまく繋げていくことができるか、例えば、ここにいらっしゃるメンバーと繋がっていただけたいと思っていて、パイプ役みたいなのが、私とかできるのであればやりたいて思わせてくれるぐらい活発ですごく刺激になった。

#### 【会長】

ぜひ、パイプ役を務めていただけるとよいかと思う。

実は、この審議会の第1回を始めた時に、時々、U40のリーダーに出ていただいて、話を聞いたことがある。その勢いが、最初、この高松の創造都市を推進する、とても良い雰囲気になったと思う。

その後、代替わりをしていったので、現在、また、熱い議論があるということで、ぜひ、審議会にお呼びするなり、あるいは合同の会議をやるなり、そういった企画があってもいいとは思う。それで現在第5期なので、第1期からの方から全員が集まったら相当の人数になる。そういった方々が高松の今後のことについて、同じ方向を向いていれば、それは大変有効なことだと改めて思う。

この会議もいろいろ工夫をして、これまで会場もあちこち出かけて議論をしたりしてきたが、おそらく、あと半年ぐらいはオンラインでやらざるをえないということで、オンラインだからこそ逆にU40の方も時間があったら、オンライン上で気楽に繋がるっていうことも可能かと。事務局にも、ぜひ御配慮いただきたいと思う。

では、副会長から御意見をいただきたい。

#### 【副会長】

商工会議所は、商工会の発展の支援をするのが仕事なので、私どもは、今の中小企業の状態が決していい状態ではないので、何か応援をし

なくてはというふうにみんなで考えている。

高松の商店街を歩くと、少しずつ人通りが戻ってきている感じはしている。だが夜に歩くと、まだまだ人通りは戻っていない。そのため、「Go To Eat」事業を企画して、1万円で1万2500円分の食事ができるという券を発行した。予定数の約99%が売れ、使用実績も85%ぐらいとなっている。使用期間は8月30日まで延期しているので、また皆さんに使っていただけるものだと考えている。

先ほど、皆様の御意見を聞いていて、この創造都市を進めてこられて、きっといい形でそれに向かっていたと思うが、コロナでブレーキがかかったと思う。それに対して、こども未来館の出張は素晴らしい企画で、それを企画した方に拍手を送りたい。

またU40の方々が、高松のキャッチコピーを作るというお話を聞かせていただいたが、もし、とても素晴らしいキャッチコピーができたなら、それはすごいこと。本当に人の心をキャッチする、高松市のキャッチコピーが出来ることを、心から願っている。色々な分野の方が集まって、そして、みんなそれぞれ支え合って、最後はハッとするようなキャッチコピーと一緒に、これからの高松創造都市の推進に向かうことを希望している。

#### 【会長】

本日は、皆さんから貴重な御意見をいただいた。こういうパンデミックっていうのは、歴史上たびたび起きている。一番有名で、私にとって印象深いのはフィレンツェで中世に起きたパンデミックである。当時、ペストで、フィレンツェの人口が3分の1ぐらいに減った。それから数十年してルネサンスが起きる。都市の文化が爆発的に大きくなる時は、その前に大きな社会変動がある。人々の考え方が変わるきっかけとなる。

今は、やはりこれまでの経済や社会のあり方についての見直しが進んでいると思うが、その変化をいち早く芸術家が捉えたりする。そして芸術の考え方が変わってくる。今でいうと、例えば、デジタルアートのようなテクノロジーを活用した新しいアート表現が出てくる。

こういう流れの中で、決して大都市じゃなくてもオンラインで繋がっていれば、世界のことかわかるので、高松のような、ある種自然環境にも恵まれて、そしてコンパクトに都心が形成されている理想の中規模都

市で、何か文化的な新しい試みが世界に広がるようなものが起きてくるという可能性がある。

創造都市は、コロナを越えても進化していく、深まっていくという事業だと思うので、ぜひ、さらに深掘りして、高松の創造都市を極める、そういった試みを続けていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

それで、U40なり、若い方々の試み等もぜひネットワークをしていく、リンクをしていくということがいいかなと思っている。

#### 4 閉会

(事務局から開会挨拶)